

第7回原子力安全合同シンポジウム開催案内

2021.11.17 作成

日時：2021年12月23日（木）（WebEX接続9:50-）10:00-16:40

場所：WebEXオンライン開催 参加申込：<https://www.rop.tokyo/>

開催趣旨：東日本大震災以降も、北海道胆振東部地震や台風、豪雪に起因する再エネの出力低下に伴う停電も発生し、エネルギーインフラを自然災害から早期に復旧するレジリアンス対応や電力安定供給の必要性が増しております。蒸気タービンの慣性力が系統を安定化させていることも認識されるようになってきました。また、わが国では、ROPの本格運用に伴い必要となる、リスク重要度分類、リスクインフォームド意思決定（RIDM）やオンラインメンテナンスなども基準化に向けた整備が開始されました。

さらに菅前首相の2050までに実質的なCO₂排出削減ゼロの所信表明演説があり、岸田内閣も2030年度までにCO₂の排出を46%削減するなどグリーン成長政策を選挙公約に掲げ、11月2日のCOP26でも世界に向けてわが国の取り組み方針を紹介しましたが、先進国の中で再エネによるCO₂の大幅低減に成功した国は皆無で、発展途上国や中国などが脱石炭政策に経済成長の観点から反対しています。

これらの状況を踏まえて、本年も原子力安全合同シンポジウムを開催致します。

主催：日本機械学会 動力エネルギーインフラ部門 リスク低減のための安全規制の最適化研究会、

震災・エネルギーインフラ臨時委員会、日本保全学会原子力安全規制関連検討会

協賛：原子力学会シニアネットワーク、EEE会議、

プログラム（各講演の最後に5分の質疑討論をお願いします）

＜全体の趣旨説明＞ 10:00-10:10 奈良林直（東工大）

＜震災・エネルギーインフラ臨時委員会＞

司会 浅野等（神戸大）

10:10-10:40 世界で多発する大停電と再エネの影響

奈良林直（東工大）

10:40-11:05 次世代電力ネットワークと地域間連携エネルギーシステム

浅野浩志（東工大）

11:05-11:30 電力系統安定化に対する原子力発電所の効果

村上洋平（日立製作所）

11:30-12:00 集中豪雨による内水氾濫や火山噴火の太陽光パネルリスク

桂川正巳（国基研）

＜昼食＞

＜我が国のROP規制検査と事業者の取り組みとリスク＞

司会 青木孝行（東北大学）

13:00-13:30 耐震裕度向上に向けた地元自治体との取り組み（仮題）

（人選中）（四国電力）

13:30-14:00 再稼働に向けた取り組みと地元自治体説明（仮題）

田畠光秀（東北電力）

14:00-14:30 再稼働およびカーボンニュートラルへの理解促進活動の提案

今野隆博（日立GE）

14:30-15:00 ROPの定着推進と学会活動に期待すること（仮題）

古金谷敏之（原子力規制庁）

15:00-15:30 オンラインメンテナンスによるリスク低減 岡本孝司（東大）、石橋文彦（東芝ESS）

15:30-16:40 総合討論＜リスク低減に向けた活動＞ 司会 岡本孝司（東大）、奈良林直（東工大）

参加者全員による討論

参加費：無料、定員：200名

合同シンポジウム実行委員会：東京工業大学 奈良林直、東京大学工学系研究科 岡本孝司

シンポジウムに関するお問い合わせ先：e-mail: symp@rop.tokyo（奈良林と岡本に同報されます）

参加申込方法：<http://www.ROP.tokyo>にアクセスしgoogleフォームに必要事項を記入してください。googleフォームにアクセスしにくい方はe-mail：symp@rop.tokyoに「原子力安全合同シンポジウム申込み」と明記の上、氏名（所属）メールアドレスをご連絡下さい。googleフォームに、事務局で代理入力します。複数名登録の場合でも、それぞれご本人から1人1通ずつgoogleフォームに登録するかメールしてください。登録いただいたメールアドレスに必要な情報をご連絡します。

登録はgoogleフォームかe-mailか、どちらかだけでOKです。定員になりましたら締め切ります。

講演資料は、<http://www.ROP.tokyo>に期間限定でアップロード予定です。講演申し込みされた方には、パスワードをご連絡致しますので、講演資料を事前にダウンロードしてください。

震災・エネルギーインフラ臨時委員会を当日朝9:00-10:00にオンライン開催しますので委員の方はご出席ください。